（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後くらぶ ひこばえふぅ			
○保護者評価実施期間	令和6年　11月　9日	～	令和6年　11月　30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	28名	（回答者数）	24名
○従業者評価実施期間	令和6年　11月　15日	～	令和6年　11月　30日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5名	（回答者数）	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年　2月　10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちのやってみたいことを実現するために、みんなで考える機会を持てること。	子供たちがやりたいことを自発的に伝えてきたことを受け止め、活動のルールの中で、どうしたら実現できるかを一緒に考えながら行動に移すことで満足感や自信に繋げている。また、グループで行う活動の場合は、他のお友達にも意見を聞きながら折り合いをつけ合い楽しく過ごす経験を積み重ねている。	活動の中で見られた子供たちの新しい姿や成長した姿を認め、その事を子どもたちに合った方法で伝えていくことで、更に自信を重ね、一人ひとりの力をより伸ばしていけるような取り組みを目指したい。
2	一人ひとりに丁寧な支援が届くように、職員間での情報を共有し、チームとして適切な支援に繋げようと心がけていること。	学校での子どもたちの様子を先生に伺ったことや保護者からの情報を、職員間で共有し支援に活かしている。また、支援後のミーティングでは、子どもたちとの会話の中で気になったことや話題についても出し合い、子供たちと深く関わりながら今後の必要な支援に繋げている。	事業所での子供たちの様子を学校の先生に伝える機会が少なく、必要に応じて情報共有する機会を設けるなど今後も実施していく。
3	保護者支援（家族支援）について、気軽に相談できる機会（期間）を設けている。また、日々の情報を共有できるようにご家族とのコミュニケーションを大切にしている。	・子どものご家庭での様子や学校での出来事などを、保護者から日常的にお聞きすることで子どもとの関係性も深まり、支援にも繋がりやすい。 ・法人内での行事や座談会等への参加を呼びかけ、ひこばえ（法人）全体での交流を図っている。	小グループでの保護者交流会など、保護者同士が参加しやすい形での機会を設ける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもたちの「やりたい」を大切にしているが、反面、やったことのない活動には消極的になっているのではと感じる。	新しい環境や慣れていない場所への不安が強い子どもたちが比較的多いため、本人の意志を重視しすぎると特に屋外での活動の幅が広げにくくなっている。	個人ではなく、普段一緒に活動する集団の力を利用すること、また、丁寧に見通しを持たせることで経験できることを重ねながら活動の幅を無理なく広げ、子どもたち一人ひとりの充実した過ごしに繋げていきたい。
2	支援の技術向上のための研修や会議を持つ機会が少ない。	・限られた職員体制の中で、時間の調整に課題がある。 ・日々の業務内容の効率化が必要。	・支援の課題を共有したり、職員の意見を取りまとめやすいように事前に課題提供を行い、短時間での研修や会議が実施できるような取り組みが必要。 ・活動の中で、その都度必要な適切な支援等について指導したり、職員間で課題を共有することでその後のミーティングに繋げていく。
3	事業所で開催する保護者会（交流会）等の機会が設けられていない。	利用者の特性の違いにばらつきがあり、それぞれの保護者が話題としたい内容について全体的に共感を得にくい。	・グループでの保護者交流会など、保護者同士が参加しやすい形での機会を設ける。 ・保護者同士（きょうだい同士）の繋がりを意識して、日頃の利用者支援から離れて過ごす交流会など、視点を変えた内容の企画からスタートする。